

ブリヂストン

グアユールの加工研究所

「Biorubber Process Research Center」の竣工式を実施

—天然ゴム供給源の多様化に向けた取り組みを推進—

ブリヂストンのグループ会社である、Bridgestone Americas Tire Operations は、2014年9月22日に、アメリカ合衆国アリゾナ州メサ市で、天然ゴムを含む植物「グアユール」の加工研究所「Biorubber Process Research Center(BPRC)」の竣工式を実施した。同施設において、2015年から天然ゴムの試験生産を開始し、2016年までに次のステップに向けた判断をするとしている。

タイヤの主要な原材料の中で大きなウエイトを占める天然ゴムは、その約9割を東南アジアで生育する「ゴムの木（パラゴムノキ）」より採取されている。世界の自動車保有台数の増加に伴い、今後もタイヤ需要は拡大が見込まれる。そこで、同社グループは天然ゴム産出地域の一極集中を緩和するため、新たな天然ゴム供給源の研究開発を行っており、「グアユール」に関する研究開発活動はその重要な取り組みのひとつとなっている。「グアユール」由来の天然ゴムは、従来の天然ゴムと同様に、植物がうみだすバイオマテリアルだが、「グアユール」は熱帯地域を原産とするパラゴムノキとは異なり、乾燥地域で栽培することができる。これにより、天然ゴム供給源の多様化が期待される。

「BPRC」では、今後30名を超える研究者と技能員が従事し「グアユール」から天然ゴムを採取するための加工技術の研究開発を行なう。また、同社グループは、アリゾナ州エロイ市にて、114ヘクタール（東京ドーム約25個分）の農地を確保し、2013年9月に「グアユール」の品種改良や、栽培技術を目的とした研究農場を完成させ、運用を開始している。今後、同社グループのアメリカ、日本の各技術センターでは「BPRC」で生産された「グアユール」由来の天然ゴムについて、最適なゴム配合の研究開発を行ない、2020年代の実用化に向けた検討を進めていくとした。

